



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要						
建物名称	(仮称)静岡鷹匠二丁目プロジェクト	BEE	1.7	BEEランク	A	★★★★

2. 重点項目への取組み度						
重点項目	得点	満点	取組み度		評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.9	/5			ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.1	/5			ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	3.0	/5			ふつつ	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	3.2	/5			ふつつ	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)			評価 凡例	よい 4 点以上	ふつつ 3 点以上	がんばろう 3 点未満

3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。		得点	3.9
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)			
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級4相当」 ③カーテン・庇(バルコニー)の2種類の組合せて制御 ④日本住宅性能表示基準 劣化の軽減に関する事等級3相当 ④LDK:床フローリングt12壁ビニールクロス(PBt12.5),天井ビニールクロス(PBt9.5) ④給水PEP(B),汚水排水VP(B),雑排水VP(B),Eは不使用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑥中・高木の水平投影面積率:30%以上、緑被率、水被率、中高木の水平投影面積率の合計:30.6%以上 ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦日本住宅性能表示基準「5-1断熱等性能等級4相当」 ⑨BEI=0.85 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪水栓に泡沫水栓、節水型便器を採用 ⑫開放廊下・シートタイル/断熱材・硬質ウレタンフォームA種1H ⑫躯体・軽鉄+仕上材のテイルを採用している ⑫ODP=0.01未満かつGWPが低い発泡剤(GWP(100年値)が50未満)を用いた断熱材を使用 	Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔		
		Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上	
		LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制	
		LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 2.1.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.1.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.1.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.1.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.1.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.1.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒	
	LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 ⑭ライフサイクルCO2排出率=78% 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善		
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)		得点	3.1
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰光ケーブルの引込、ケーブルTVによる災害情報入手、精密機械の地下空間の設置を避けている 	Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)		得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑱バリアフリー法基準項目の半分以上を満たした。 ■室外環境(敷地内)対策 (⑲地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> ⑲視線を遮るような塀等を作らず、見通しの良いフェンス等を設け防犯性・防災性に配慮している。 	Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ		
		Q-3 3 3.1 ⑲ 地域性への配慮、快適性の向上	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)		得点	3.2
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (⑲生物環境の保全と創出/⑳まちなみ・景観への配慮/㉑敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> ⑲中・高木の水平投影面積率:30%以上、緑被率、水被率、中高木の水平投影面積率の合計:30.6%以上 ■敷地外環境対策 (⑲温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑲地表面対策面積率が45%以上 	Q-3 1 ⑲ 生物環境の保全と創出 2 ⑲ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑲ 敷地内温熱環境の向上		
		LR-3 2 2.2 ⑲ 温熱環境悪化の改善	

CASBEE[®]-建築(新築) | 評価結果 |

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)静岡鷹匠二丁目プロジェクト	階数	地上15F
建設地	静岡県静岡市葵区鷹匠二丁目4番29・4番30・4番31	構造	RC造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	385 人
地域区分	7地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年6月 予定	評価の実施日	2020年8月5日
敷地面積	2,646 m ²	作成者	株式会社 アーキプラン—級建築士事務所 弓場 千也
建築面積	982 m ²	確認日	2020年8月5日
延床面積	10,563 m ²	確認者	株式会社 アーキプラン—級建築士事務所 弓場 千也



2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

BEE = 1.7

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

30%: ☆☆☆☆ 60%: ☆☆☆ 80%: ☆☆☆ 100%: ☆☆ 100%超: ☆

①参照値 100%
②建築物の取組み 78%
③上記+②以外の 78%
④上記+ 78%

46 (kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.1

LR 環境負荷低減性

LR のスコア = 3.7

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.2

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.4

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合	住宅性能評価で断熱等性能4等級を取得する計画とし、省エネルギーに配慮している。敷地境界線際など、良好な緑地環境に配慮している。	
Q1 室内環境	断熱性能を平成28年基準による省エネルギー対策等級4とし、外皮性能に配慮。F☆☆☆☆の内装建材を採用し、室内空気環境に配慮している。	敷地内の日照・植栽条件に応じた中高木および緑地を設け、良好な緑地環境に配慮している。
Q2 サービス性能	躯体は劣化対策等級3相当とし、設備は耐用年数の長い配管材を採用し建物の長寿命化に配慮している。	
LR1 エネルギー	断熱性能を省エネルギー対策等級4相当、潜熱回収型湯沸器、LED照明設備を採用することで省エネルギーに配慮している。	ライフサイクルCO ₂ 排出率を参照値より抑制し、地球温暖化への配慮をしている。
LR2 資源・マテリアル	主要水栓に節湯C1、便器を節水型とし節水に配慮。P.S. 天井内配管等により設備との錯綜を回避し、部材の再利用の可能性を高めている。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される